

紹介

古代学協会編

西田先生
頌寿記念 日本古代史論叢

本書は、さきに古稀の祝をされ、尚現在御健在の中に教鞭をとられる傍御研究を続けておられる西田直二郎博士の長寿を記念して、直接先生の薫陶をうけた京都大学国史科出身の門下生が中心になって編纂したものである。先生の学問的業績そのものについてはこゝとさらにここでのべる必要もないであらう。近來はまた戦前における日本史学の秀峰として「西田史学」の検討が行われてもいる。

収載する論文は五十一篇に及び、学界の中心メンバーの執筆になつて質量ともに充実した内容をもつている。先生の最も得意とされる古代史にテーマを限定したことから一層その感が深い。最近古代史に関する論文集や個人の著作が次々と刊行されている中で、本書の占める位置はすこぶる大きい。さすがに文化史的考察が多いが、そのみにとどまらず、社会経済史政治史、或いはまた文献批判を含む地道な研究など多方面に論者の筆がの

ばされているのも本書の価値を高めるものであらう。論文個々についての紹介はここでは省略させて頂くより仕方ないが以下に目次のみを掲げておく。

- 大化前代の田制について 赤松 俊秀
- 法然上人の御影致 井川 定慶
- 藤原時代の『人間』と文化の創造的な要因としての『心ばせ』 池田 源太
- 『ニューカラ』よりみたる日本のシャーマニズム時代 石沢 淑
- 清原宣賢の『日本紀神代抄』について 今中 寛司
- 法興寺から元興寺へ 岩城 隆利
- 日本古代医学の一面 梅原 隆章
- 諸第郡司の性質 大石 良材
- 琵琶湖深湖底遺跡についての若干の考察 小江 慶雄
- 安祥寺上寺址について 景山 春樹
- カモ神考 堅田 修
- ヤマト国家成立期の一考察—— 飛鳥・奈良時代の石造文化 川勝政太郎
- 十二支と古代人名 岸 俊男
- 籍帳記載年令考—— 令制官吏の成績審査基準について 喜田 新六

讀と珍との比定に関する一考察

日本原始文化の性格
——繩文文化に對する二三の考察—— 木村 武夫

陸奥の金 小葉田 淳

金剛藏王顯現源流考 佐藤 虎雄

古代学の發展と史学の根底としての時間論 酒井 忠雄

『日本書紀』と伊吉連博徳 坂本 太郎

古代の寿詞について 柴田 実

江戸時代の皇陵と古墳調査 末永 雅雄

——大和篇—— 日本古代人と高砂族及南方民族における私有財産の安全について 鈴木 讓

常陸堀ノ内古築址出土の篋書土器について 高井悌三郎

難波における齋宮の祓所と大江殿 滝川政次郎

古代における山中浄土の思想 高瀬 重雄

——特に立山の場合—— 『いわれ』の君 田中 勝藏

近時の銅鐙の出土について 田中 巽

軍団と衛府 角田 文衛

朝顔花形円筒埴輪の本質 内藤 晃

『古事記』天孫降臨条の構成について

直木孝次郎

美術史における古典様式の問題
——ヴェルフリンの

中村 二柄

形式概念について——

林屋辰三郎

部民制の成立

樋口 隆康

古鏡に映じた古代日本

肥後 和男

八百万の神々
奈良時代における擬制同族的結合の意義
——特に那司級の豪族性をめぐって——

福尾猛市郎

古代史上の吉備の児島

藤井 駿

硬玉の勾玉

藤田 亮策

平安中期の国内海運

古田 良一

奈良時代仏教の密教的性格

堀池 春峯

『魏志』倭人伝行程記事の解説

牧 健二

最澄の天台立教とその周辺
宣命の起源

真坂 忠之

平安初期の商業と商人

松本 雅明

加羅諸国小考
——神功紀の加羅七国
——
平定記事について——

松山 宏
三品 彰英

打出の小槌考

宮崎 市定

大江匡房について

村山 修一

法金剛院の造営と阿弥陀像

毛利 久

日本における古代火葬墓の分類

——歴史考古学
的研究序論——

安井 良三

『古事記』序文考

藪田 嘉一郎

大嘗祭の成立年代

西田直二郎先生略年譜

西田直二郎先生著作目録

(A5判八二六頁・昭和三十五年十二月
吉川弘文館発行 定価一、五〇〇円)

横田 健一

学界消息

史学研究会関係

五月例会

五月六日(土)午後

見学会

青葉の神護寺・高山寺を探る
——神護寺虫弘展特別見学——

六月例会

六月三日(土)午後一時より

於 陳列館第二教室

大岡検地論の批判に答える

宮川 満氏

読史会春季旅行・新入生歓迎会

五月一三日(土)午前八時半よりバスにて、
天智天皇陵—毘沙門堂—坂上田村麻呂墓—
名神高速道路—醍醐三宝院—法界寺—随心
院をめぐり、ここで新入生歓迎会をもち、
午後三時頃から安楽寿院址を経て東寺にも
どり、夕刻解散した。本年度新専攻生は、
学部一〇名、大学院修士課程三名である。
読史会春季大会 六月一日(日)

国史関係

読史会春季旅行・新入生歓迎会

五月一三日(土)午前八時半よりバスにて、
天智天皇陵—毘沙門堂—坂上田村麻呂墓—
名神高速道路—醍醐三宝院—法界寺—随心
院をめぐり、ここで新入生歓迎会をもち、
午後三時頃から安楽寿院址を経て東寺にも
どり、夕刻解散した。本年度新専攻生は、
学部一〇名、大学院修士課程三名である。
読史会春季大会 六月一日(日)

読史会春季大会 六月一日(日)

読史会春季大会 六月一日(日)

読史会春季大会 六月一日(日)

読史会春季大会 六月一日(日)

読史会春季大会 六月一日(日)

読史会春季大会 六月一日(日)

読史会春季大会 六月一日(日)

読史会春季大会 六月一日(日)

読史会春季大会 六月一日(日)

読史会春季大会 六月一日(日)

読史会春季大会 六月一日(日)

読史会春季大会 六月一日(日)